

## ロボット支援下膵切除術プロクター基準

(日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会)

日本肝胆膵外科学会および日本内視鏡外科学会は、肝胆膵領域のロボット支援下膵切除術の安全な導入を目的として、プロクター（手術指導者）としての基準を以下の様に定める。プロクターとは、当該術式における術者として標準的な技量を取得し、他者によるロボット支援手術を円滑且つ安全に指導できる(プロクタリング<sup>®</sup>)指導者(プロクター)を指す。

プロクター候補者は所定の様式にて随時申請を行い、日本肝胆膵外科学会の審議を経て認定される。認定されたプロクターは日本内視鏡外科学会に報告される。

プロクターとしての資格はあくまで安全な手術の導入を目的としたものであり、個人に与えられる専門医資格等とは異なる。当該術式が普及するとともに、必要に応じて基準や制度そのものが見直される。

### (A) プロクター基準

1. 日本消化器外科学会 消化器外科専門医である。
2. 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・指導医または日本内視鏡外科学会技術認定取得者である。
3. 以下の術者経験を有する。

#### [ロボット支援下膵頭十二指腸切除術の場合]

開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下にかかわらず術者として膵頭十二指腸切除 20 例以上の経験を有する。そのうち、ロボット支援下が 10 例以上含まれること。

#### [ロボット支援下膵体尾部切除術の場合]

開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下にかかわらず膵切除（核出術以外膵切除部位を問わず）20 例以上の経験を有する。そのうち、ロボット支援下膵切除術 10 例以上、ロボット支援下膵体尾部切除 5 例以上が含まれること。

### (B) 暫定プロクター基準

プロクター基準を満たさなくても、適切な指導者がいれば安全な手術の導入が可能と考えられるため、下記の様な暫定プロクター基準を定める

1. ロボット支援下胃切除術のJSES認定プロクターによる手術指導

ロボット支援下胃切除術のJSES認定プロクターは以下の条件を満たせば暫定プロクターとして手術導入時の指導を行うことができる。この場合、手術施行施設は、手術指導者が『JSES認定プロクター資格』を所持していること、自施設が別に定める『ロボット支援下膵切除術導入に関する指針』における『術者基準』『施設基準』および下記の基準を満たしていることを確認すれば、肝胆膵外科学会に申請をする必要はない。

[ロボット支援下膵頭十二指腸切除]

腹腔鏡下膵頭十二指腸切除5例以上の経験を有する手術チームがロボット支援下膵頭十二指腸切除を開始する場合。

[ロボット支援下膵体尾部切除術の場合]

腹腔鏡下膵切除（核出術以外膵切除部位を問わず）5例以上の経験を有する手術チームがロボット支援下膵体尾部切除を開始する場合。

2. 海外での当該手術経験者による手術指導

日本の医師免許を所持する医師が海外で多数のロボット支援下当該手術を経験している場合、高度技能専門・指導医資格や消化器外科専門医資格を有しなくても、日本で十分な手術指導をおこなうことができると判断される。この場合、暫定プロクター候補者は以下の条件を満たした上で、日本肝胆膵外科学会において個別に審議・認定される。手術施行施設については、自施設が別に定める『ロボット支援下膵切除術導入に関する指針』における『術者基準』と『施設基準』を満たしていることを確認すれば、肝胆膵外科学会に申請をする必要はない。

[ロボット支援下膵頭十二指腸切除術の場合]

開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下にかかわらず膵切除（核出術以外膵切除部位を問わず）30例以上の術者経験を有し、そのうち、ロボット支援下膵頭十二指腸切除20例以上が含まれること。

[ロボット支援下膵体尾部切除術の場合]

開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下にかかわらず膵切除（核出術以外膵切除部位を問わず）30例以上の術者経験を有し、そのうち、ロボット支援下膵体尾部切除10例以上が含まれること。